



# ヘブル語講座アウカルト

## 「アニー・ホフマー」

わたしは知恵  
(箴言8章12節)

### はじめに神は…

ツァデーは「釣り(針)」を表した文字です。

Tsade

魚釣りのように引き上げる。

そはに引き寄せる、という意味があり、

それは、やがて主イエスが私たち教会を天に引き上げること

そして、イスラエルの民を集め、この地に神の国を建てることを意味しています。

(作・神田満)

●知恵の書と言われる箴言に、「知恵」と訳されたヘブル語「ホフマー」は何と105回使われています。その8章には「アニー・ホフマー／知恵であるわたし」(原文は「わたしは知恵」というフレーズがあります。使徒パウロはこの「わたし」を「キリスト」と解釈して、「キリストは、私たちにとって神からの知恵」(一コリ1・30)であると記しています。「神の知恵」とは、神を知ることと同義です。「この世の知恵」、すなわち人間の知恵によっては神を知ることができません。同じ「知恵」ということばを使ったとしても、「神の知恵」と「この世の知恵」は全く異なり、区別すべきものです。それらを混ぜ合わせる「ことなご」できません。

●「神の知恵」は「光」の概念と同様に、目に見えない、知り得ない神の永遠の「計画」、神のみこころ、神のみむね(喜び)、神の目的を含んでいます。パウロはそれを「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないもの」「神を愛する者たちに神が備えてくださった」ものだと表現しており(一コリ2・9)、その一つ前の節では、「この知恵を、この世の支配者たちは、だれ一人知りませんでした。もし知っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかつたでしょう」と述べています。その意味は、神に敵対する者たちの企みをも用いて、神はご自身のご計画を実現してしまわれる方であるということです。

●また「知恵であるキリスト」は、御国の福音をたえて語られました。それは分かりやすくするためではありません。聞く人が関心を持って尋ね求めないなら、悟ることはできないという「神の知恵」なのです。さらに、「あの書」(イザヤ12・1)は人生の中でキリストと出会い、必ず永遠のいのちにあずかることが、世界の基が据えられる前から定められています(エペ1・4)。その選び(救い)は「神の知恵」によるものであり、誰の名が記されているのかは私たちには分かりません。

●すべての人は、罪のゆえに例外なく目が見えない状態で生まれてきます。それは神がすべての人をあわれむためです。目が見えない者たちが「私たちをあわれんでください」とイエシュアに叫んだ時、イエシュアは深くあわれんで、彼らの目が見えるようになりました(マタ20・34)。同様に、やがて終わりの日に盲目だったイスラエルの民も、私たち教会も、イエシュアによってそれぞれ目が開かれてメシア王国に入る事ができるのです。それはまさに主の「あわれみ」です。パウロはこのあわれみについて「ああ、神の知恵…は、なんと深いことでしょう」(ロマ11・33)とたたえています。

(銘形秀則)

### 編集後記 (史料・機関誌委員会から)

6月の連盟オンライン祈禱会では、この夏の全国修養会(7月26～28日)を覚えて、共に折り合うひと時が持たれました。

年に一度の、緑豊かなY.M.C.A.東山荘での、全国の主に在る兄弟の集いが、交わりとみ言葉の、豊かな恵みの時となりますように。

6月下旬の今、梅雨入りと同時に全国にわたり、線状降水帯の大雨、水害と、むし暑い真夏日の繰り返しの中で、皆様のお守り、お導き、励ましをお祈り致します。

(K・N)



#### 発行所

宗教法人 日本神の教会連盟  
東京都練馬区羽沢二丁目一九

練馬神の教会内

相原典之

#### 発行者

沼 慎二

福岡県筑紫野市二日市北二丁目一八一六

日本神の教会連盟 二日市栄光キリスト教会

電話&FAX 〇九二(九二四)五〇九八